

②財産の管理について

監査委員から物品の台帳と現物の照合について指摘があつている。

③債権の状況

須崎地区森林組合への貸付額1千900万円に対し、平成26年度返済額190万円、決算年度末残高は0円である。学資貸付金は平成26年度貸付金852万円、返済額は589万5千円で、決算年度末現在額は5千62万円である。貸付金は100%徴収されている。

④基金の状況

基金（基準日平成27年3月31日）は、9億5千431万円積立し、1億7千705万2千円取崩し、決算年度末の残高は、70億2千485万6千円で平成26年度末に比べ7億7千256万8千円増加している。

⑤地方債の状況

平成26年度発行額は、16億726万6千円で償還金は8億1千534万7千円（繰上償還含む）である。決算年度末残高は、67億4千755万5千円で平成25年度末に比べ7億9千191万

9千円増加している。

⑥収入未済額の状況

収入未済額は、町税2千558万3千205円、養護老人ホーム入所負担金82万3千100円、保育料・幼稚園授業料等8万6千950円、教員住宅使用料28万500円、学校給食費65万8千420円の合計2千747万575円で平成25年度末より281万7千79円減少している。

特別会計

国民健康保険事業特別会計

平成26年度末、加入世帯数は1千78世帯で総世帯数に占める割合は39.6%となつている。被保険者数は1千743人で総人口に占める割合は28.0%である。医療費一人当たりの平均額は32万4千159円で増加傾向にある。国保税に対する徴収率は91.48%でその内訳は現年課税分96.25%、滞納繰越分43.65%となつている。

直営診療施設勘定特別会計

受診者数は、姫野々診療所で延べ1万2千36人、杉ノ川診療所で延べ7千464人、合計で延べ1万9千500人と毎年減少傾向が続いている。

簡易水道事業特別会計

使用料について68万9千929円の未収金がある。

生活環境施設整備特別会計

本年度の浄化槽設置基数は28基で減少傾向にある。使用料で40万7千340円の未収金がある。

介護保険事業特別会計

保険料について501万1千75円の未収金がある。

後期高齢者医療特別会計

歳出の主な内訳は、総務費36万4千523円、後期高齢者医療広域連合納付金8千665万3千515円である。

財政健全化判断比率基準値を下回り「健全」

平成26年度決算における財政健全化判断及び公営企業の経営健全化判断は、いずれも国の定めた健全化基準を大きく下回っており、赤字や資金不足は生じていない。

財政健全化判断

指標	健全化判断率	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	15.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	20.0%
実質公債費比率	△3.5%	25.0%
将来負担比率	負担なし	350.0%

経営健全化判断

会計名	資金不足率	健全化基準
簡易水道事業	不足なし	20.0%
生活環境施設整備	不足なし	20.0%

- 標準財政規模
補助金や借入金を除き、標準的に収入が見込まれる財源の規模。26年度は37億3千38万6千円。
- 実質赤字比率
普通会計の標準財政規模に対する赤字の割合
- 連結実質赤字比率
町の全ての会計の標準財政規模に対する赤字の割合
- 実質公債比率
町の標準財政規模に占める借金返済額の割合
- 将来負担比率
町の標準財政規模に対する将来支払う負債の比率